

第 1 回総括部会の振り返り

1 まちづくりの将来像について

- ・「暮らし、育て、働こう！」だと最後に来る「働こう！」にウエイトがかかると捉えられるため、並びを変更し「暮らし、働き、育てよう！」に改められたい。そうすることにより、語感も良くなり、那覇市の将来を担う子どもへの視点も高められる。
- ・人口が減少することが予測されているため、第 4 次総合計画で掲げた将来を担う子どもへの視点を第 5 次総合計画においても引き継がれたい。
- ・事務局提案の諮問案は、学生に好印象を与えており、概ね評価できる内容となっている。
- ・ローマ字、ひらがな、漢字表記については、それぞれを表現した表記となっており、諮問案のとおりとしても良いと考える。

2 市政運営の姿勢について

- ・市政運営の姿勢で“しせい”が 2 回続けてでてくることで、語呂が悪くなっている。
- ・障がい者への視点や性の多様性の視点も加えるべきである。
- ・基本構想については、全体のトーンをそろえるべきであり、一部分に遊び心を取り入れたと事務局からの説明があるが、「Kからはじまる」に対しては遊び心とは言えないため、表現を修正されたい。
- ・本項は、市政運営の姿勢であるため、骨太の表現とされたい。
- ・那覇市は、これまで「平和」というメッセージを強く発信してきたと評価している。第 5 次総合計画においても市政運営の中で「平和」を骨太の柱として位置付けられたい。
- ・国際都市を目指すのであれば、外国人への視点も重要になるため、国籍の違いを超えて高め合う社会を築き上げて頂きたい。

3 めざすまちの姿について

(1) 互いの幸せを地域と福祉で支えあい誰もが輝くまち NAHA について

- ・那覇市は、LGBT に対する支援宣言を行っているところであり、性の多様性について明確に位置付けられたい。

(2) 未来を拓き豊かな学びと文化が薫る誇りあるまち NAHA について

- ・子どもや文化の分野はそれぞれが、独立して柱となるほど重要な分野であることを認識して行政運営にあたられたい。
- ・子どもが支援の対象となるような視点が強すぎるため、子どもが主体性をもって健やかに成長するような表現にされたい。
- ・県の 21 世紀ビジョンにおいて健康長寿県の復活も柱とされており、県の施策との整合性もとれて当然であると指摘しておきたい。
- ・文化の分野も一歩踏み込んで「しまくとうば」を入れるなど検討されたい。

(3) ヒト・モノ・コトが集い、育ち、ひろがる万国津梁のまち NAHA について

- ・ 沖縄全体が観光レジャー・リゾート都市というイメージが強かったが、これからはビジネス交流の拠点となる可能性が現実味を帯びてきている。そのためビジネスリゾートという概念が重要となることを認識されたい。
- ・ 那覇空港の機能や那覇港の機能が拡充され沖縄県の入口としてビジネスの拠点となるため、沖縄全体の中で那覇市がリーダー的な役割を果たす姿勢が必要である。
- ・ 県内の景気が好調であるのに、給与面は依然として低い環境である。産業を支える人のモチベーションがあがる施策を強化していく必要があり、生活者の視点を入れてもらいたい。
- ・ 生活者の労働環境を改善するために、那覇市ができることをやるという視点が必要である。
- ・ 「世界水準にふれあい、つながり、ひろがる・・・可能性を秘めている」とあるが、可能性が現実味を帯びてきていることを認識し、表現を検討されたい。

6 将来人口について

- ・ 第5次総合計画計画期間終了後の平成40年の人口の目標を315,000人としており、計画期間終了時点で人口減少問題に対する取り組みを検証することとなるが、目標値を達成するために、しっかりと諸施策に取り組んでももらいたい。

その他

- ・ 全体的なトーンとして、現在の市民の視点に偏っているのではないかと、国際都市を築くという構想とするからには、日本国籍の方々だけでなく、来訪する外国籍の方々への視点も考慮する必要がある。あえて構想の中に盛り込まなくても良いが、国際的な交流都市を築く中においては、そのような背景をしっかりと行政で受け止めておく必要がある。

第2回総括部会は、「3 めざすまちの姿」の内、「自治・協働・男女参画・平和・防災・防犯」と「環境・都市基盤」、「4 重点取組事項」、「5 基本構想を推進するために」について審議を行う。